

E-22 民家の微気候学的研究 — 岐阜県高山市における町屋の吹抜の通気効果
について — 奈良女大家政 O叶内米子 深瀬度子 花園利昌

目的：わが国各地にみられる民家の風土適応性について、特に微気候学的立場から、
いんわんは検討して来ている。^{*}その一環として今回は岐阜県高山市の町屋におけるこ
の特徴的な吹抜の通気効果について報告する。

方法：現存する高山市の町屋の中で、その特徴はほぼ原型のものを残している吉島休
兵衛家を対象とし、他の一軒を選び、吹抜内には立体的に配置した測定点において、気流
気温の測定を行うとともに、戸外風速と風向を合わせて測定した。屋内気流と気流温は熱
線微風速計を、戸外風速と風向の測定には風車式風向風速計を、吹抜の室内温度の垂
直分布はサーミスタ抵抗温度計を用い連続自記記録させた。測定期間は1974年7月26
日から30日までで、測定時間は午前9時から午後5時および午後5時半から7時まで
である。

結果：1)天窓(破風)に正対する外気流(風)がある場合は吹抜内には「吹込み」の
通気がみられるが、それに対し天窓の後方又は側方からの外気流がある場合は「吹出
し」の通気となる。2)外気流が2m前後の場合、吹抜内には0.2~1.0m/sの気流がある。
3)この気流は日中、室内上部にあたり、空気の停滞するのを防ぎ、当地気候の特徴
のため高山の夏期における感覚温度低下に役立つものと考えられる。

* 既発表論文：民家の微気候学的研究 第1回 第12報 1968~1973年
家政学研究(奈良)